

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2770900856		
法人名	医療法人 杏仁会		
事業所名	グループホームブルーベリー		
所在地	高槻市東和町57-1		
自己評価作成日	平成 29年 9月 5日	評価結果市町村受理日	平成 29年 10月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kani=true&jigyosyoCd=2770900856-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 29年 9月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・献立を決め、買い物、調理を行っている。 ・庭には畑があり、収穫した物は食卓に並んでいる。 ・買い物、散歩、庭、畑いじり等、外へ出る機会が多い。 ・敷地内には老健、居宅事業所、隣接してクリニック、デンタルクリニック、保育園がある。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護老人保健施設を始め地域に根付いた事業展開をしている医療法人の代表が、「独立した家でゆっくり皆と一緒に暮らすことができる場所」を目的で設立したグループホームです。平成10年設立で、見学者の受け入れ等先駆的な役割を果たしてきました。敷地内にはハーブ園や畑があり、自然に恵まれた環境です。散歩や食事材料の買い物、就寝前の入浴等、自宅での暮らし方が実現できています。家族の訪問も多く、家族会の開催、行事参加にも積極的で、利用者・家族・職員が共に助け合う暮らしです。「ゆっくり一緒に楽しむ」の理念は職員に共有され、リビングから聞こえてくる笑い声や会話は利用者が中心になっています。1ユニット9名のほのぼのとした温かい雰囲気の中での暮らしは、利用者が家族に、「あなたも年をとったら、ここに入りなさい」と勧める程、居心地のよいグループホームです。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「輝いて共に生きる」を基に、「ゆっくり一緒に楽しむ」をホームの理念として掲げ、日々ケアに取り組んでいる。	「輝いて共に生きる」の法人の理念をもとに、独自の理念「ゆっくり一緒に楽しむ」を作り、実践しています。理念は職員間で共有され、利用者が中心の生活になっています。また、職員は一緒に生活をしているからこそ見える気づきや発見を日々の支援に活かしています。理念はホーム内に掲示され、日々、職員が確認したり、家族・地域に理解してもらっています。	理念のさらなる実現のために、具体的な目標を作り実践されてはいかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日スーパーで買い物をしたり、散歩に出かけたりしている。 保育園、小学校や中学校との交流もあり、体育祭や文化祭も見学したり、お祭りや花火大会には参加して頂いたりしている。	利用者は食事の買い物のため毎日のようにスーパーへ出かけたり、散歩にも出かけることで地域の方達と顔なじみになっています。近隣住民が野菜を持ってきてくれる関係が築かれています。中学校の文化祭に参加した時は、生徒が入口で出迎えてくれました。地域のお祭りや盆踊り・花火大会にも出かけ、地域住民と交流しています。地域との、交流を深める中で、認知症への理解が得られるようになってきました。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でお話しさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いた意見はスタッフと話し合い、運営者にも報告し、サービスの向上に努めている。	新しく守秘義務等を盛り込んだ運営推進会議開催設置運営要綱を設定しています。会議は、市職員、民生委員、利用者、利用者の家族等の参加を得て、おおよそ2ヶ月に1回、年6回開催しています。年に2回は家族会の日に合わせて開催し、家族の意見を聞く機会にしています。会議の場所は、利用者の様子が良くわかるホームのリビングです。ホームより、利用者の生活状況や行事の様子を中心に報告してきましたが、最近は、避難訓練、事故防止等の他、困難な支援事例として、帰宅願望のある利用者についての支援状況を説明し、参加者から意見を聞いています。管理者は意見を職員と共有し、支援に活かしています。外部評価結果も受審の目的や意義と併せて説明しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方には、電話や会議の場で相談したり、報告をしている。	市職員の運営推進会議への参加を得てホームの状況を知ってもらい、相談等を行っています。計画作成担当者は必要な時に、市役所の担当者を訪問しています。市の担当部署には、事故報告、外部評価受審結果の報告をしています。 市主催の集団指導、研修会等には管理者が参加しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム開設から身体拘束はしておらず、原則禁止行為であると言う事は全スタッフに周知できている。 勉強会にも参加している。	管理者は身体拘束をしないケアの重要性をよく理解し、職員に周知・徹底しています。マニュアルは毎年点検し、見直しをしています。職員は法人主催の研修会に参加し、研鑽をしています。日中玄関は施錠せず、利用者の自由な生活を支援しています。外出したい利用者には、その都度職員が付き添う支援をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にも参加し、虐待について学んでいる。ホーム内だけでなく、ご自宅、ご家族様に対しても注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までに成年後見制度を利用された方はいませんが、勉強会にも参加し、いつでも支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には見学して頂いて説明をされており、十分理解、納得した上で契約締結している。解約の際も話し合いの場を持っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議で外部者へ表せる機会を作っている。 又、意見は運営に反映する様、努力している。	管理者、職員とも家族の信頼を得ることの大切さを理解し、日々取り組んでいます。リビングの壁には、利用者の楽しそうな外出の様子やホーム行事の写真を掲示しています。家族の訪問も多く、職員は利用者の生活状況を報告しながら家族の要望も聞いています。家族会も年2回開催し、家族の交流とともに意見を聞く機会にしています。家族会は、参加者も多く盛会ですが、運営に活かすような意見は少ない状況です。 利用者からは、毎朝、昨日の献立をベースに意見を聞き、夕食・朝食の献立を決め、買い物をしています。	日々の努力で家族の信頼は得られていますが、家族の意見・要望を更に有効にするため、ホームとして一番確認したいテーマに絞り、家族交流会等家族の集まる機会にアンケートを実施されてはいいでしょうか。 その際、ホームの取り組み状況での良いところ、評価できる点も同時に確認されてはいいでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンス、起案書等により、提案を聞く機会を設けている。	管理者は、職員が自ら考えて利用者を支援することが大切と考えています。朝夕の職員引き継ぎ時に職員の考えを確認し、必要な時は自身の考えを説明し、日々のより良い支援に取り組んでいます。管理者と職員は、自由に意見が言える関係にあります。申し送りノートは、様々なことを記入し、職員間の意思疎通に活用しています。法人には起案書制度が有り、経費が嵩む事項等の職員提案は、起案書により法人関係者と相談して実現が図られています。ホーム全員で回転寿司に出かける等が実現しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が生き生きとやりがいを持って仕事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの段階に応じた外部研修を受講できる体制を整え、法人内でも毎月研修を行っている。 研修に参加できなかった者に対し、伝達研修を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高槻市介護保険事業者協議会に加入し、事業者が連携して勉強会等を開催し、よりよいサービスを提供できるように取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と向き合い、じっくりと話を聞くことを心掛けています。ブルーベリーではほぼ毎日買い物に行っており、その道中は密にゆっくり話せる時間です。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族会を年に2回開催して、交流を深めている。 また連絡を取り合い、ご家族様の話を聞いたり、こちらでのご本人様の様子を伝えたりし、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インフォーマルなサービスを使い、地域の方々との交流を図っている。(夏祭りや地域の中学校の文化祭や運動会に行く)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を持ち、わからないことを相談します。 特にブルーベリーでは料理等、先人の知恵を拝借させていただく機会が多いです。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とも十分なコミュニケーションを図り、同じ思いでご本人様を支援していく関係づくり行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にも協力していただき、ご近所の方、知人の方に面会に来ていただいたり、外出、外泊したりする事も勧めている。	馴染みの知人や近所の人の面会は多くあります。利用者が入居前に通っていたデイサービスのスタッフや利用者が訪問することもあります。誰でも訪問しやすい雰囲気作りに心がけ、訪問を歓迎しています。行きつけの百貨店に行く利用者もいます。 馴染みの方達からの話の中から、利用者のこれまでの人生を新たに知ることがあり、一人ひとりの人生に思いを馳せる大切さを職員は学んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握している。 利用者孤立した場合、口論になった場合はスタッフが間に入るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても面会に行ったり、ホームに遊びに来て頂いたりしている。又、相談を受けた際、誠意をもって答えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1で話せる機会を設けている。 その時に話された事をケアプランにも繋げている。	「ゆっくり一緒に楽しむ」の理念を掲げ支援している暮らしの中で、職員は利用者に寄り添い、利用者の気持ちを理解するよう努めています。日常的な関わりの中での気づきや発見は記録に残し介護計画に反映させています。利用者の情報交換でミーティングが1時間かかることもあり、職員間での情報の共有を大切にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様、本人、ケアマネジャーより、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックを行い、その日の状態を確認している。 毎日の申し送りでスタッフが共有し、月1回モニタリングも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の意見を尊重し、ご家族様、スタッフで話し合い、計画を立てている。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。ホームでの利用者一人ひとりの役割が介護計画に反映され、意欲を高める暮らしにつながっています。 毎月モニタリングを実施し、基本的には6ヶ月毎に見直しをしています。 計画作成担当者は、「利用者の意向を第一とする介護計画」を心がけています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は分かりやすく簡潔に書くよう心掛け、毎日の申し送りで情報を共有し実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援が提供できるよう、スタッフ間でのミーティング、ゆとりをもった人員配置で臨機応変に支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や法人内にも協力を得て、楽しく生活ができるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診がある。 また、必要に応じ敷地内の歯科クリニックであれば受診への付き添いも行っている。	入居前からのかかりつけの医療機関へは、希望があれば受診可能です。同法人のクリニックをかかりつけ医とする利用者がほとんどで、月2回の往診を受けています。看護師を職員として配置していることも、利用者・家族・職員の安心につながっています。また、同法人クリニックと連携して、緊急時にはいつでも適切な医療が受けられるよう医療連携体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほぼ毎日、看護師が出勤している為、ある程度の状態は把握している。 また、24時間オンコールになっており、適切な看護が受けられるようになっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際、ケースワーカーにすぐ連絡を取り、必要な情報提供を行っている。 法人内スタッフが定期的に病院を回り、関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人、家族等と話し合い、希望された病院や施設等を案内している。	ホームでは「看取り支援は行わない方針」を明確にして、入居面接時に利用者・家族に十分な説明を行い、同意を得ています。利用者が重度化した場合には、本人・家族と話し合い、病院・介護老人保健施設・特別養護老人ホーム等へ移行できるように支援しています。 ホームとしては今のところ、利用者の重度化や看取りには対応しませんが、生きがいのある日々の暮らしを心がけ支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会への参加、伝達研修を行っている。 また、対応方法を指示している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自治会より、協力体制の契約は結べないとの事であるが、地域との良好な関係は築いている。 また、ホームで年2回、法人内で年2回の計4回消防避難訓練を行っている。	消防署と連携して、併設施設と合同の避難訓練を年2回、ホーム独自の訓練を年2回実施しています。夜間を想定しての訓練も実施しました。 非常災害用の水や食料品も準備しています。	火災等の防止のために、火の元やコンセント等、日常的に点検するシステム作りをしていかれてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、その人その人にあった丁寧で分かりやすい言葉かけを心掛けている。	法人内の「共育委員会」を中心に接遇の質の向上に取り組んでいます。会議やミーティングでも、利用者に対し、人生の先輩として言葉かけにも尊厳をそこねない関わりが大切であることを確認しています。 プライバシー保護のマニュアルも作成しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の献立決めや、余暇の過ごし方等、自己決定できるよう言葉かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望された事ができる様、努力している。 スタッフだけでは困難な事はご家族様にも協力して頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には更衣をし、髪をとかす等の支援をしている。 また、外出時は希望に応じてお化粧のお手伝いもしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日献立を決め買い物に行き、調理、片付けと一緒にやっている。	毎日の朝食、夕食は利用者と話し合って献立を決め、利用者と買い物に出かけて材料を購入し、調理しています。献立の本を見ながら献立を考える時間も楽しんでいます。ホームの畑で採れた野菜も使います。昼食は併設の介護老人保健施設で作られたものを配膳しています。配膳・配茶・テーブル拭き・洗いの等、利用者一人ひとりに役割があり、生き生きとした表情で役割を果たしています。 誕生日には、本人がごちそうと思えるものを聞いて作ります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好品や習慣等、入居時に尋ねている。毎日の摂取量も記録し、必要であれば法人内の管理栄養士に相談している。 一人一人の食べられる量も把握している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にはハミガキをする様に支援している。 週2回義歯洗浄剤につけ清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しており、トイレへの案内をしている。	トイレでの排泄を基本としています。誘導が必要な利用者には、一人ひとりの排泄状況を把握し、随時声かけして誘導しています。リハビリパンツとパッドを使用していた利用者が、随時の誘導により布パンツ使用になった事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を取り入れたり、お米にもち麦をまぜたりしている。運動をし、予防に努めている。 また、内服薬で予防もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴するかしないかは、一人一人に尋ねており、最低でも週2回以上は入浴できるよう支援している。	開設当初から、就寝前入浴です。家での生活をホームでも実現しようとの考えで、管理者・職員は就寝前入浴は「あたり前」と考えています。利用者は入浴したい時に入り、連日入浴する利用者もいます。 ゆず湯や菖蒲湯等の季節湯も用意して、利用者に喜ばれています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	日中であっても、その時の状態 に応じ居室で休んで頂くよう支 援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	お薬情報をファイルしてあり、 いつでも見られるようにしてい る。 薬に変更があった際、申し送り でスタッフに周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	個々の生活歴や力に合わせ役割 を持つて頂いている。 楽しみごとや気分転換の方法は 個々によって違うことから、個 別に対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かける ように支援している	「今すぐ出かけたい」といわれ れば、希望に沿えない時もある が、出来る限り沿うように努め ている。 墓参りや外食、デパート等、ご 家族にお願いすることもある。	近隣の散歩や近くのスーパー への買い物など、日常的に外出 を楽しんでいます。ホーム周辺 の散歩、家庭菜園の水やりや収 穫、同法人施設のレストランに も出かけています。家族と一緒 に墓参りや外食、百貨店に行く 利用者もいます。桜やバラ等、 季節の花を見に行き、季節を味 わってもらっています。前もって 決めた外出だけでなく、行きた い気分の時に出かける外出も大 切にしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお金をお預かりしていて、どの程度であれば使用してよいか入居時に確認している。高額な物が欲しいと言われた時や必要性に迷った際はご家族様に連絡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも電話を使って頂いて良い事としています。 ハガキ等を郵便局へ一緒に買いに行っています。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目で見てもそこが何をする場所なのか分かるように張り紙をしたり、トイレは電気をつけたままにしたりしています。	ホーム内は広く、穏やかな雰囲気です。リビングは天井が高く、天窓からの採光で部屋は明るく、テレビの前にはゆったりとしたソファが置いてあり、利用者は横になってテレビを見る等、自由に寛いでいます。庭園や家庭菜園を見渡すことができます。壁には、写真を飾り思い出を楽しんでいます。 9名の利用者と職員から聞こえてくる笑い声や会話から、利用者が中心の暮らしが伝わるリビングの光景となっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名で話ができるようソファを配置したり、庭に向けて椅子を配置したりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンとカーテン以外は全て持ち込みになっており、使い慣れた家具を持ってきて頂くようお願いしている。	本人が気持ちよく過ごせる居室づくりを大切にしています。居室の扉にわかりやすい表札を掲示しています。利用者が以前使っていた馴染みの家具や、大切にしている家族の写真等を持ち込み、その人らしい居室づくりを工夫しています。 職員は利用者と一緒に室内の清掃や整理整頓に取り組み、利用者が気持ちよく過ごせるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には表札をたて、トイレやスタッフルームの前にも掲示している。 居室から一歩出れば共有空間があり、安心感もある。		